

## 銀の輔銀座千枚

相変わらず銀座は、建物が出来たり無くなったり、更地になったり放ったらかしになったり、忙しい街だ。挟間の細道なんか、建物と一緒に消えたることもあれば、何かの拍子に不思議な道が生まれることもある。だから、大きな再開発で路地まで塞がれると、ああこのまま道は無かったことになるんだろーなと思つ一方、あの隙間に路地が出来たらいいなって妄想をするんだ。

ギンザシックスの大工事であつた通りまでフェンスで囲



われた時は悲しかったけど、トンネルつぼく復活して、そりゃ嬉しかった。

考えたら、並びの銀座コアにはギンザアレイって先輩トンネルがある。しかも道の途中には、若松と万年堂って甘いもん屋さんが並んでる。そーいや一丁目の越後屋にも、抜け道みたいなミニトンネルがあるな。確か小松ストアにもあつたっけ。

見上げるような立派で華やかな建物に、現代風路地を作る気持ちだが、やっぱり銀座だとなつて。

## 高野金次郎商店

親切第一 令和1年無沙汰号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-1

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.booo.jp/

### 勝手にお気に入り5

高金商店休刊中に起きた事件ベスト5

- ・二年連続の引越越し
  - ・白内障手術(治療続行中)
  - ・住居前の勝手に花壇計画
  - ・二十年以上続いた、五月の京大阪の旅の中止。
  - ・突然のぼね指再発。
- 次点:長年使い続けたカラケイからスマホに。祇園のお茶屋さんで飲む偶然。

## 銀の輔大塚も千枚なのか?



紅葉狩りならぬすすき狩りに行った。ここに野良犬が顔を出していた。飼い犬と違って精神なスタイルと面構えの奴等のそばに呑るのは、怖かった。

最後に東京で野良犬を見たのは、九十年代初頭の灣岸エリア。晴海を抜けて古い倉庫が一杯あつた豊洲を通つて、東雲のも

うちよい先に広がつて、草の畔も存亡の危機かしら?

茫々の埋立地だ。休日の放つたらかされた元海に居るのは、釣りに来たおじさんと、車のつなぎに身を固めて磨き上げたバイクで走る走り屋と、彼らを警戒するパトカーくらい。

い。不法投棄の粗大ごみと、違法駐車車の街宣車やテキ屋さんのパンが点在する更地は、秋になるとすすきヶ原になるんで、よ



誰もセカセカ落ち着きがない街で、ぶらぶらフワフワ。でも野良犬は怖いけど。えっ、フワフワ歩いてる人も一杯います。フワフ、こ酩酊こ酩酊。

大塚の真新しいヒルの入口で、犬と蛙が秘密の相談中。ですよ、この街で野生の生き物と言えは、少々の猫と決して少なくはない鼠と、やたら多い雀と、増減激しい鳩と鳥。両生類も爬虫類も、まあ住めないっすね。と苦笑してるのかどうか。こう

# 大塚プチアーカイブ

毎度お馴染み、旧店舗から救出した、壁紙代わりに使った中途半端に古い写真を眺めて語る、東京プチアーカイブ。今回は趣向を変えて、町別のストックボックスから我が大塚の北口写真をピックアップ。撮影時期は今までと同じ平成前後、まあほぼ平成一桁の風景だ。

北口駅前のメイン商店街は、今も昔も商業会。昭和末期には、既にほぼ飲食店というラインナップになっていたけど、この頃にはまだキャバレーも健在。老舗ミカドは横道に入って、この道と並行するガン研通り（現宮仲公園通り）に出るすぐ手前なので、ここからは見えない。



その代りといつては何だけど、かの有名なキャバレーチェーン・ロンドンの袖看板が見える。その下のロビイは今の大塚北口診療所のビルで、この頃はパチンコ屋だが、喫茶店だった時代もある。

更にその手前、今はちよだ鮎がある角のビル、当時は百花園という果物屋だった建物のオーナーには、自民党影の大家と言われた某氏の弟という風の噂。右隅に倅かに見えるナゴレオンもキャバレーだろうか？ キャバレー時代の終焉が近い頃、これ以降大塚は、怪しげな風俗店とラブホテルが増殖してゆく。

最初の写真は、店は変わっても建物は今もそのままだが、二枚目は、写ってる建物の全てが消滅している。手前の駐車場はOMOSのビルと小林理容室になり、隣がほ



んど、奥の喜楽という袖看板は今やコインパーキング。雪が積もる並木の左は現・宮仲公園通り、正にうちの店の前から撮った写真なのだ。現ほんこの建物が出来る前は、喫茶店だったり鉄板焼屋だったり不動産屋だったりしており、手前の駐車場は、かつては日本料理店、その前は和菓子屋だった。

三枚目の写真、寿し栄の建物はそのままに、不動産屋を経て、巡り巡って提灯街の寿司屋。大塚屈指の旨い寿司屋が消えたのは、本当に悲しかった。左奥の家々は、大きなマンションになった。

そして真下の一枚、奥に見えるのは在りし日の大塚ビル、大塚唯一の戦前建築も、あつという間に更地になり、高層マンションを建設中。最初は白木屋百貨店の大塚分館、それから松菱デパート、ずっと時代が下って住友銀行が入り、くすりの福太郎く



あおい書店とマクドナルドが来て、そして唐突に解体され、大塚のランドマークは健気に走る都電のみ…。

# 江戸橋



親子揃い日向ぼっこの線路際 梅里

年ごとにビルの溪谷深み増し



またひとつ煙突壊す日も近く



大塚住人頼みの綱は、言わずと知れた山手線、南北大塚界隈で、跨ぐ四つの橋渡り、電車見下ろし橋尽くし、巢鴨目の前江戸橋の、どこが江戸かは詮索せず、打ちっ放しのネット消え、マンション工事も喧しいが、坂を下って大塚駅、過去の彼方へ、角萬の、坂道登れば名も麗しき、空蝉橋の真上から、豹変大塚そ

の奥に、スカイツリーも垣間見え、踵返して線路際、フェンスに絡む紫の、あれは夕顔空蝉と、源氏の君を気取りつつ、切られ枯木は桜の巨体、隙間のベンチは特等席で、Y字路過ぎて栄橋、変則交叉の住宅街、方向感覚狂わせて、見上げる先の煙突は、由緒正しき破風造り、千代田湯

先、名物風景消え失せて、解体を待つ世の流れ、一本先の西巢鴨橋、改修工事で閉鎖中、数年先の完成時には、名残皆無に違いない、とほとぼ歩く東池、とどこが大塚過ぎたけど、明治通りも近いけど、宮仲橋の何気ない、暮らしの中の小さな橋から、渡れぬ隣の橋眺め、踵返せば池袋、焼却場の煙突は、マンモスプールの成れの果て、橋は暮らして町つなぐ。

## 大塚山手線沿い橋巡りの旅

### 空蝉橋 UTSUSEMINASHI



路地ふたつ体はひとつ泣き別れ



老いた橋お化粧直しに数年月

高級句誌  
俳人同様  
Haijin Doyo  
三朝庵梅里・筆  
SAN CHO AN BAI RI

## 北口番外編

東京大塚カウンター異聞  
K'sバーの人々

「フフ、お洒落な店の店長さん、からかわないで下さいよ、鐘ヶ淵さん」。最初は何屋だか分かり難くてたやたら入りにくい店、次はめっちゃ狭くて入りにくい店だったのに、いきなり全面ガラス張りな丸見えな店になったんだ。「居眠り、できませんね」。

「この町は一気に変わりましたから、大塚唯一の戦前の建物だった大塚ビルが消えたのは大ショックだったが、跡地に工事中のマンションがどんどん階を重ねるうち、目の前の異景に、思わず前の建物のことがスコンと抜けていく。「そう言いつつもしぶとく変わってないんじゃないかと思ってたんですが、この間のクラフトビールまつりの様子をみて、しみじみ思いました」と鐘ヶ淵さんが言う通り、あのイベントは、これまで大塚で催されたものとは一線を画していたっけ。

「クラフトビールというテーマでくくったこと、家族連れがいなかったこと、欧米人のお客さんが多かったこと、どれも新鮮でしたねえ」。街

の外観の変化に寄り添うのが良いとは限らないけど、新たな客層をゲットしたんじゃないかと思った。「というかベングインさんは、単にビールが飲みたかっただけでしょ?」「いやいや、違いますってー!」「まあまあムキにならなくてもいいんですよ、フフフ」。

「そういえば、鐘ヶ淵さんの店に行く途中にあった洋服屋さんも、店じまいしちゃいましたね」、「フレイムですね。お店が少ない折戸通りで頑張ってたんですがね、どうやらオーナーさんが引退するらしいです」、「折戸通りは仕事ラッシュですね」、「そうそう、もうじき大きなマンションができるでしょ?」、「住友不動産って大きな垂れ幕が、僕の店からも見えますよ」、「ずっとコインパーキングだったこともマンションだし、他にも幾つか工事中ですよんね」、「共産党のビルが出来たのはビックリしました」、「フフフ、東京都委員会のように」、「ビルが出来ても、お店がでないのが残念です」。

僕が子供の頃の折戸通りは、

肉屋・乾物屋・履物屋・文房具屋・パン屋に本屋と、この町にもあった普通の商店街だった。「ちょっと男装の麗人風な女主人がやってくる菓屋もありましたよ」、「菓屋さんだって、バツと思いい出すだけでも、北口に四軒ありました」、「もしかして一番古いお店は天平食堂でしょうか?」、かも知れないなあ。折戸通りはよく買い物に行かされたっけ…。

「そうそう、アナタの店の地下に、卓球場が出来ましたね」、「そうなんです。卓球しながら飲めるって洒落な店で、「なんかバブルの頃のプールバーを思い出しますな」、「近所に、二十四時間使える本格的な卓球場もあるんです」、「ちょっと前まで、折戸通りにもあったんですけどね、案外短命でしたよ」。折戸

編集後記のようなもの  
ご無沙汰というの恥ずかしいくらい間を空けてしまい、すいません。公私共に怒涛の如き日々を送っていたもので、今回は激変続々我が町・大塚の話でためた号にしました。次はいっ作れ

通りがまだ商店街だった頃、もっと前だろうか。うちの斜め前にも卓球場があったと記憶している。きつとそんなに珍しい存在ではなかったんだろ。アタシの店の近くには、こん平師匠のお宅があるでしょ。こん平さんは、小遊三さんと並んで卓球の名手ですからね、大塚は卓球の町になるかも、ですよ、ハハハ」。

「飲み屋だらけの町なのに、卓球があつて」、「スポーツジムが四軒」、「ビルはどんどん増えても、相変わらず不思議な町ですねえ、大塚は…」。  
\* \* \*  
「あの、お店はやってるんですか?」、白髪をポニーテールにした、僕と同年代っぽい奴が声を掛けてきた。「はあ、なんでしようっ?」、「何でしようって、お客ですよ」。

るの分からないけど、絶対作りますから!★配布協力感謝:池之端古書房つうろ、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司が谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社、淺草・珈琲アロマ本駒込・青いカバ、平井・平井の本棚、大塚・ベングイン堂雑貨店。